

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300445		
法人名	株式会社 アクタガワ		
事業所名	ハートフルホーム厚原 認知症対応型共同生活介護		
所在地	静岡県富士市厚原179番地1		
自己評価作成日	平成27年12月19日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvoCd=2292300445-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハートフルホーム厚原は昨年5月にオープンした施設です。1階がグループホーム1ユニットと隣に小規模多機能型居宅介護が併設になっています。
施設の周りには茶畑や田んぼがあり、富士山もみえる環境にあるため、散歩をする際はお客様が季節を感じることが出来ます。鷹岡地区の町内会にはいっており、地域のお祭りや防災訓練にも職員とお客様一緒に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町内会へ4月に加入、さっそく8月には利用者と鷹岡地区夏祭りに出かけ、また中学校に交流を申し入れると同時にアルミ缶回収に協力を始め「職場体験学習へつなげば〜」と前向きです。社会福祉協議会ではボランティア幹旋一覧表を得て、オカリナ(9月)マンドリン(11月)ハンドベル(12月)の演奏会を実現させ、初めてとなる事業所主催のふれあい祭り(11月)は運営推進会議で呼びかけ、回覧とポスティングのほか、市役所や地域包括支援センターにも案内を置かせてもらえ、町内会長をはじめ50名余が訪れ盛況でした。地域に「ハートフルホーム厚原此処に在り」との風を届け、来期につながる手応えのある充実の一年でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として会社の経営理念を1階事務所に掲げ、職員で共有しています。	会議前に読み合わせるほか「～地域福祉コミュニティに取組む」は「出社から地域との関わりが～」と職員に意識づけをおこなっており、近所から声がかかっていることから手応えを感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ入り、地域のお祭りや防災訓練に参加しています。中学校でアルミ缶回収がある際は、お客様と職員と一緒にアルミ缶を出しに行くなど、地域の一員として役割意識をもてるような機会を設けています。	鷹岡地区夏祭りやどんど焼き、子ども神輿の立ち寄りでのふれあいのほか、中学校のアルミ缶回収協力、オカリナ・マンドリン・ハンドベルの演奏会を実施、また開設から初めての事業所まつりも果たしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月14日を地域貢献活動の「アクタガワの日」として近隣を清掃しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の運営推進会議を開催しています。そこで入居者情報をお伝えしたり、活動報告をしています。ご家族や町内会長や市役所職員、包括の職員の意見や要望をうかがい、活動にいかしています。	家族を中心として土曜開催ですが行政、地域の参加も得られています。「外食に役立てたいので1ヶ月分のメニュー表が欲しい」等忌憚ない意見が議事録には満載で有意義な情報が集まる場となっていることが伝わります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所の方と地域包括の方と交互に出席していただいています。そこで情報の共有を図っています。	運営推進会議には土曜日にもかかわらず市役所と地域包括支援センター交替での出席があります。会議では「レイアウトはテーブルを囲みざっくばらんに」との助言をはじめ、具体的な評価に大いに助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう職員には会議時に周知・徹底させています。居室の施錠についてはお客様の判断に委ねていますが、お客様が鍵をかけられることは今のところ、ありません。	ユニット入口に電子ロックが設置されてはいますが富士市より「施錠はしない方向で」との指導もあり、遵守しています。また「何が当たるのか」実例をあげ、認識共有しています。単独で離設してしまう可能性のある人の対策も成されていることを確認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成、職員は毎月虐待防止自己チェックリストを管理者へ提出し、常に注意して取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて成年後見人制度について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には重要事項説明書等の必要書類を用いてご説明・ご質問の時間を設けご理解・ご了承を頂いてから署名・捺印をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月の運営推進会議や年2回の家族会・お客様アンケートを通じてご意見をいただき検討に努めています。	面会が少ない家族にはメールでの連絡がおこなわれ、「写真をデータでほしい」から「酢の物を作ってきたから食べさせたい」まで多岐に渡る要望に副うことが叶い、運営推進会議の記録でも意見の豊富さがみられました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会議時や業務の際に職員の意見・考えを確認したり、個別面談をして話を聞き反映させています。	些細なことでも『ホーム長への連絡ノート』を通じて伝える習慣があり、ホーム長は必ず返事を書くとともに早期に話し合いの場を持つように心がけていることが、ヒヤリハットを増やし事故の防止にも役立っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に個人目標を設定し、上半期・下半期に評価面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修プログラムに基づき、ステップ研修に取り組んでいます。また、社外研修やマナー研修にも積極的に参加し、培った経験を会議時に参加出来なかった職員に教え、情報共有を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や富士市グループホーム事業所連絡会に参加し交流が図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前にご本人、ご家族様、ケアマネージャー、医師に聴き取りをおこない、その人らしい暮らしが入居してもできるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族の方と話し、悩み・要望・相談について伺っています。入居後は、お客様の事業所での様子等についての情報共有を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所にて提供出来るサービス内容をしっかりと説明し、お客様・ご家族様の使いたいサービスをしっかりと把握して情報を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様に出来るお手伝いをさせていただけるように促し、お客様同士と一緒に楽しめるようなレクリエーションを考え提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の生活歴や日中の様子を話し合い、こちらでの様子をお伝えするだけでなく、写真を渡して家族とお客様が写真を見て話が出来るように取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主にご家族様と連絡を取り合い、一緒に外出したりする機会を設けるようにしています。	週2回家族と出かける人を筆頭に、頻回な面会を基盤として半数余の利用者に家族との外出機会があります。囲碁や将棋、社交ダンス、編み物を継続し、完成した長いマフラーは家族の安堵となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアーにてお客様同士が話を出来るような環境作りをし、一緒にレクリエーションを行うことで支援が図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	培った関係性を無駄にせず、何か相談事等がある場合には親身になって対応させていただいています。施設でのイベント(お祭り等)の際には、お誘いさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様一人ひとりとコミュニケーションをとることを大切に、話を傾聴し支援に努めています。	家族からの聴き取り、職員共有を密にしています。当て所のない言葉から探ったことが具体的な情報把握となったことで本人とのコミュニケーションに工夫が加わり、繰り返し訴えることが減った例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取りや個々の生活歴情報からサービスに繋げていけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応表や介護経過記録用紙・申し送りノートを活用し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を行い、カンファレンスの中で意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映できるようにしています。	サービス担当者会議に家族の参加はないものの、面会や電話を通じて意向を取り入れており、また半年毎に作成するプランは医師や訪問マッサージ師など多職種で見直されることが目を惹きます。	すべては難しいとしても1例でもサービス担当者会議に家族が参加することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を用い職員間で話し合い、情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助・訪問理美容の手配・イベントの参加取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に地域の方々に挨拶をしたり、地域行事に参加したりと支援が行えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携がしっかりと図れています。さらに、ご家族様の意向に合わせ状況に応じて通院介助も行っています。	全員が月2回往診のある協力医に変更しており、報告では家族向けも用意してもらえる丁寧さに事業所も心強く助けられています。専門医の受診支援は家族とし、無理な場合は有償サービスの利用をお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医との連携をしっかりと行い、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員の方と情報交換を行い、その後の対応方法については主治医に相談して決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医とご家族様、訪問看護と連携し、最期までその人らしい生活ができるよう対応しています。	地域医療に力を注ぐ協力医の柔軟で誠実な応援を受け、訪問看護と家族、職員とが一つになって看取りに取り組んでいます。看護師の「一緒に頑張りましょう」の言葉にも励まされ、医師を交えた見送り後のカンファレンスでは反省点も見出すことができました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを有し、チーム内研修を通じて対応確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設にて防災訓練を定期的に行っています。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を築いています。	夜間想定含め年2回実施、内1回の消防署立合いでは消火方法など具体的に学んでいます。大規模災害時の避難については運営推進会議にて家族と話し合い、また地域の訓練には利用者と放水訓練を体験しています。	地域の防災訓練に出向き顔を知ってもらっていますが、事業所の訓練にも地域から参加が得られるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チーム内研修時に接遇の実施や外部講師によるマナー研修に参加しています。	年6回の外部講師によるマナー講習、法人内で接遇に係るコンクールもおこなわれ、意識が続く仕組みがあります。チーム内研修で接遇や介護技術を学ぶ際には「入浴介助の声かけ確認」等具体的に話し合っています。	挨拶は丁寧でしたが主に若い職員が「表情が硬い」という印象でした。外部の訪問で緊張があったのかもしれませんが、今後は外部者がいてもいなくても状態を保てるよう期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の勤務を厚くし、お散歩や買い物のご希望に添えるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に添えるよう、外出・気分転換が出来るように勤務配置を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	私物の衣類を使用していただき、着るものに関してはご本人様に選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に料理をしたり、食事を取り、片付けを行っています。	時間は要しても盛付、配膳と分担し、男性も味見など願うことで皆で手作りする日々ですが、職員は各自持参しており食事は別としています。「刺身のリクエストには回転寿司」というように外食もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況に合わせ、食事量や塩分制限を行ったりと支援が図れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、清潔を保つことが図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレ誘導を行い、出来る限りトイレ内にて排泄が行えるように努めています。	自立している人でも極力排便の確認をし、水分量とともにチェック表でリズムを掴んでいます。経済的負担もあり「布パンツに～」との家族の要望に応えたことで「そこまでしてくれて～」と喜ばれた例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動にて対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛け・御本人の希望に合わせて対応させていただきます。	週3回をめやすとし時間帯は自由度を保っています。拒否の症状には「散歩して汗をかいたから」と誘い、「いい湯だな」を入浴愛唱歌とする人もいます。また外反母趾の人は医師の指示で足浴を毎日おこなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活歴に合わせた居室空間・寝具にし対応するように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や内服薬の説明書を用いて服薬時の薬の理解・支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり役割意識がもてるよう、その方の得意なことをお願いしたり、趣味を披露できる場を提供したりと、工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との連携を図り、外出できる機会を増やし、その方の希望に添えるよう支援が行っています。	好天にはその人のペースに合わせてマンツーマンで散歩に出かけ、2～3*歩ける健脚な人もいます。地域行事やスポーツ公園での試合観戦と、季節を感じる楽しみもあります。また家族と外食、ドライブの機会をもち、熱海まで温泉旅行に出かけた人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関してはご家族様に当施設で管理できない旨をお伝えしています。ご家族に了承を得て、外出レク等で好きなものを買う機会を作っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に了解が得られた際には対応させていただきます。お客様からご家族様と連絡が取りたい要望があった際には職員が取次ぎ対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって馴染みやすく、親しみやすい居住空間作りを心掛けています。	大きな観葉植物が配されるほかは目立つものはないものの、「掲示はボード」とスペースを決め清潔感があります。フラワーアレンジメントが季節を呼び、また洗面台には職員が持ち寄った花が飾られていました。清掃はチェック表に従って漏れなくおこなわれています。	清掃は行き届いていますが、リビングの大きな観葉植物には生気がなかったため今後の管理、気配りを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で会話ができるように職員が気を配り座っていただく位置等を考え対応させていただきます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご本人の使い慣れた馴染みのある物を配置し落ち着いて暮らせるように心掛けています。	肘掛付の椅子やタンス、愛着ある鏡台のほか、ゲーム好きでパソコンを持ち込んでいる人もいます。ソファーをはじめ調度品にまで気配りし、「部屋らしくしたい」という家族の細やかな配慮のある居室もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場等の場所には色のついた印をつけてわかりやすくするようにし対応しています。		